

クルリンと ほしぞらさんぽ 11月号

秋の空、ほしぞらさんぽがたのしみですね

秋は流れ星を見つけるチャンスが大きくなるんですよ。流れ星を見たい人は絶対にほしぞらさんぽしないとね。

11月の日の入り（日没にちぼつ）は何時ごろ？

11月2日の日没の時刻は（東京で）午後4時45分となっています。一年で一番日没時刻が早いのは12月始めごろで、午後4時27分ぐらいのようです。ということは、夏のころに比べると星空散歩を始められる時刻がずっと早くなるということです。日没後もしばらくは空は明るくて星が見えませんね。そのような空の状態を天文薄明（てんもんはくめい）と言います。空が完全に暗くなり星がはっきりと見えてくる（天文薄明が終わる）のは日没後1時間ぐらいしてからですから、11月・12月だと、およそ午後5時半ごろには、ほしぞらさんぽが始められるわけです。11月・12月は小学生がほしぞらさんぽを楽しむのにぴったりといえますね。安全な場所を選んで星空を見上げましょう。

流星群がありますよ

毎年11月になると流れ星が見られるチャンスが増えてきます。流れ星を見るってなんだかすごく得をしたような感じになりますね。見つけたければ、なるべく広い空を見はっていただければなりませんよ。オリオン座流星群とかしし座流星群とかふたご座流星群とか、星座の名前が付いていますが、その星座の方向を見ていけばいいのではなくて、どこに流れるかは全く予想できないので、全天を見渡せるように姿勢を工夫するといいかもね。11月17日の夜から夜明けにかけては、しし座流星群の極大との予報があります。その日が極大日とされていますが、しし座流星群はその予報日だけでなく前後の夜にも、だらだらと流れることが多く見られます。晴れたらほしぞらさんぽしてためてみましょうね。今年は満月に近い明るい月があつてじゃまだけど、それでも明るい流れ星は見えるでしょう。

秋の星座の代表

カシオペヤ座

北を向いて見上げると右手の上空（北北東の空）に「W」の字を立てたような5つの星が見えています。カシオペヤ座ですね。この星座は天の川の中にあるので、双眼鏡で見ると細かい星がいっぱい見えていますよ。

秋の見ものは

アンドロメダ座

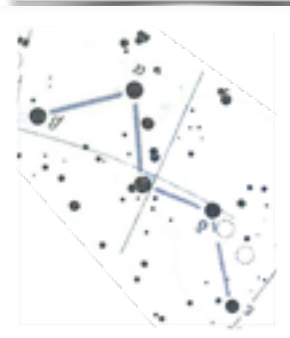
北東方向の中天を見上げると、カシオペヤ座の右側にアンドロメダ座が見えています。図をじっくり読んで、アンドロメダ座を確認しましょう。頭上にはペガサスの四辺形がありますが、ペガサスの四辺形を作っている4つの星の一つはアンドロメダ座と重なっていますから、まず頭上を見上げペガサスの四辺形を見つけて、そこから星をたどってみましょう。

メシエ番号でM31の**アンドロメダ銀河**は、およそ250万光年のかなたにあつて、4000億個もの星が集まっていると

いわれています。宇宙に無数にある銀河の中でもいちばん近くにあるので、双眼鏡でぼんやりと見ることが出来る数少ない銀河の一つです。場所がわかれば、小さい双眼鏡でもぼんやりと銀河の光が見えるはずです。図のペガサスの四辺形の星をまず探します。それから東に向かって



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン



伸びている星の列を見つけます。四辺形の角から二つ目の星の左上に注目します。

まだ見えている はくちょう座

はくちょう座は夏の星座ですね。もう11月だというのに、**はくちょう座のデネブ**が北西のかなり高い空にちゃんと見えています。はくちょうの翼を広げている様子がよく見えますね。

ということは「**夏の大三角**」も見えるのかな？ いったい何月ごろまで見えるのでしょうか。星座早見盤で調べてみて、実際に観察しましょう。

